

SINRA

深呼吸する地球マガジン

シンラ6

JUNE 1994

森林浴を雑誌の中
日本の照葉樹林・九州綾渓谷の四季

都会という砂漠で、 湧き水を探した。

〈特集〉東京の湧水・名水・天然水ガイド

先端技術が 住宅をやさしくする。

夜になり明かりを打すと、ドモテックの家がいくかに多くのガラスを使用しているかが分かる(左)。リビングルームは1階がお客さんのためのもので、2階にプライベート用がある(左下)。

「この窓は二重窓で、金属が含まれている特殊なガラスでできています。太陽熱を通すのですが、内部の熱を放出しにくくなっています。まるでガラス張りの植物園に住んでいるようなものです。こうした工夫により、自然の恵みをうまく取り入れ、制御しているわけです」

暖房設備は床暖房と電気ヒーター。床の温度が摂氏20度を越えると足が浮腫むといわれ、ヨーロッパでは床暖房の危険性が指摘されている。そこで、パリエ氏は床温度を一四度に設定し、太陽光と

「一般に機能的な家は無機質と言われ、嫌われます。しかし、私は先端技術と共生することが近未来の住宅には必要だと確信しています。コンピュータ制御でエネルギーを管理すれば無駄は排除され、結果的にエネルギーの節約ができるんです」

南面の総ガラスが目を引く。

パリエ氏はロワール川が流れる古城の街トゥール市で、自ら設計した家に住み、ある実験と検討を行なっている。玄関を入ると右側に台所。その左隣に細長いドアがある。ドアを開けると、コンピュータ・キット。これがパリエ氏の提案する「ドモテック」と呼ばれる近未来住宅の心臓部だ。

このキットに室内照明、暖房、空調などをプログラミングすると、常に適切な環境が保たれる。



Jean-Yves Barrier

ジャン＝イヴ・パリエ フランス在住。
建築家。1950年トゥール生れ。
トゥール芸術学校卒。
93年度フランス建築賞を受賞。
舞台装置制作も手がける。
フランスで最も注目される建築家の一人。

建築探偵の診断

その③

率直に言うと、こういう家は僕好みじゃない。コンピュータ制御は日本でも研究されたけど、オフィスビルの技術で住宅用には向かないと思う。だって温度や湿度のコントロールにそれほど精度はいらなくてしょ。夏は少し暑いくらい、冬は少し寒いくらいが人間が住むにふさわしい。住宅にはその意味で多少のいい加減さがあっていいと思うよ。

採点★

電気ヒーターを併用している。冬でも、この居間に差し込む光だけで十分に暖かいです。

パリエ氏の場合、先端技術が「心地よい生活」を可能にするという考えだ。「ピオテック(バイオテック)」という言



2階のプライベート・リビングの隣がバスルームだが、ガラス1枚でオープンにつながっているのが特徴。アラビアンタイルがアクセントとして使われている(上)。これがドモテックの家の心臓部とも言えるコンピュータ・キット(左)。キッチン1階にあるが採光もいい(最上)。

葉が適切な。つまり「人間が快適に住める」住宅。現在、臉の動きで操作できるパソコンがあります。身体障害者が住む家に、そうした臉の動きでプログラムできるコンピュータがあれば、どんなに快適でしょう。最先端の住宅は単に金持ちだけのものではありません。より多くの人にこのような住宅の存在を知ってもらい、利用してもらいたいものです。フランスの建築家にはまだまだ先端技術に偏見があるようですが

ドモテックの家はいわば試作品なので、定価は未定だという。

